

「着任あいさつ」

関東森林管理局長 齋藤 伸郎

(8月1日付)



ろしくお願い申し上げます。

近年の森林・林業を取り巻く情勢としては、ご案内のとおり、戦後造成された人工林が本格的な利用期を迎える中、林業の成長産業化が政府としての重要な政策課題となっております。平成28年度の木材自給率は34.8%と平成23年から6年連続で上昇し、海外への木材輸出など新たな木材需要も広がりつつあり、林業・木材産業に明るい兆しが見えてきております。

また、森林整備を進め、地球温暖化や災害を防止していくための財源として、森林環境税(仮称)の創設が決定され、本年5月には、その前提となる新たな森林管理システムを構築するための森林経営管理法が成立したところです。これからの林業を担う、意欲と能力のある林業経営者に対する支援が重要となっております。

関東森林管理局としては、国有林が持つ組織力・技術力・資源を活かし、林業・木材産業の成長産業化や地方創生への積極的な貢献に力を入れていきたいと考えております。民有林と国有林の連携強化の取り組みも、引き続き推進して参ります。

東日本大震災からの復旧・復興については、これまで実施してきた海岸防災林の復旧・再生や里山再生の取り組みに加え、今年度は避難指示解除区域での森林整備を本格的に再開し、更なる復興に向けて事業を推進していきます。



また、森林の公益的機能の発揮、豪雨災害等への迅速な対応、鳥獣害被害への対策等も益々重要となっております。これらの課題にも積極的に取り組んでいきます。

森林・林業をとりまく様々な課題に対応するためには、それぞれの現場のニーズに合った取組が必要と考えており、そのために森林管理局・署等が丸となった努力する所存であります。関係の皆様には今後ともご理解、ご協力、ご支援を賜りますよう、どうかよろしくお願い申し上げます。

今月の表紙

会所の森(千葉県勝浦市・大多喜町)

生活環境保全林として整備した会所の森は、千葉県勝浦市と大多喜町にまたがる、モミ・ツガやシイ・カシ類の天然林とスギ・ヒノキの人工林からなっており、さらに、勝浦ダムや太平洋が望める自然豊かな場所であることから、ハイキングコースや親水広場が設置され、四季を通じてハイキングや森林浴などが楽しめる憩いの場所として親しまれています。

なお、会所の地名の由来は、江戸時代、山林を管理した役人の詰所があったことからとされています。



親水広場

勝浦ダム